

こぶにかくされた秘密
ちやうけいそ

31 頂髻相

仏様の頭をよく見ると、大きなこぶのようなものがあります。こ

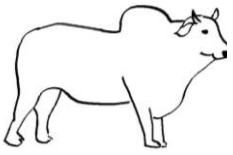


おてんと様かみてるからね... 防犯カメラがみてるからわ... 目は流れます 若生 取

れが、今回ご紹介させて頂く頂髻相です。悟りを開くとき頭にこぶができ、このようなお姿になられたように、中にははかり知れない智慧が詰められています。

何故こぶなのか。それはインドでは古代より牛は神聖なものとして敬われ、インドの牛はこぶ牛、つまり、こぶを持つ事は神聖なるものの証なのでしよう。

我々の頭では、どこまで考え抜いても悩みは生じるものです。一つの事が解決したかと思えば、また悩みが生じる。あれが欲しいと悩み、手に入れてもそれで満足することなくまたつぎに欲しいと悩む。だからこそ、阿弥陀如来は法蔵菩薩であられた時に、五劫という途方もない間人々を救う手だてを考えられたので



す。たかだか人間の一生ぐらいでは解決できないのです。仏の智慧は、人間の頭とは違う所にあるけれども決して離れた存在ではないぞと頭のこぶで示されています。

仏様の

三十二相

仏様には32の特徴があります。いよいよ最終回です。

眉間で伝える

びやくこうそ

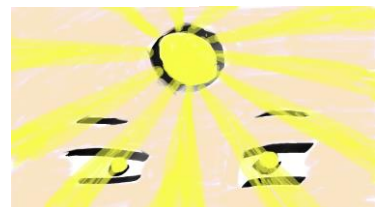
32 白毫相

仏像を拝見すると眉間に丸いものがあります。宝石が埋め込まれる時もありますが、これが白毫層です。名前の通り

これは一本の毛が右に巻かれてできているものです。經典などには、お釈迦様の白毫が光り輝き、我が身の有様を知り、真実の姿が見えるという描写があります。浄土真宗で大事にしている観無量寿経の中においても、悩みに悩む韋堤希という夫人が、お釈迦様の白毫の光を浴びる様子が描かれています。

白毫は眉間に位置する事に意味があります。眉間は急所であり、また表情を表す重要な個所だからです。眉間の動き如何で伝えることが大きく変わります。

白毫層の光を見て、真実の姿が映し出されるとい



描写は実は、仏様の心が伝わっていることを表しているのです。仏像や絵像を拝むときに、仏様の白毫に向いて手を合わせてみてください。仏様の表情がよく伝わってくることでしよう。